



3ヶ月に一度のこんにちわ

もうすぐ横浜公演です！今回はメンバーそれぞれが公演に向けての思いをお伝えします！

by デフメンバー(森旅キャスト)



いよいよ神奈川芸術劇場（K A A T）での森と夜と世界の果てへの旅の公演が始まる。

自宅が横浜で、その劇場は帰りがてら目にする僕にとってはお馴染みの劇場。

劇場周辺は山下公園や中華街にマリンタワー、横浜人形の家、横浜スタジアムにランドマークタワーなど。

エンターテイメント、グルメに観光と、それぞれの文化がギュッと横浜に。

横浜は日本の玄関口のひとつで、当時の様々なモノをいち早く取り入れた国際色を発展させた都市。

古いものと新しいものがミックスされた横浜文化は、この「森と夜と世界の果てへの旅」の世界にも共通する部分もあります。

古くからあるものと新しく変わりつつあるものの境目が、この作品ではたくさん出てきます。

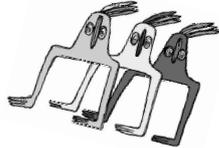
そして、いろんなタイプの人形達が驚かせ、みなさまをおもてなし！の世界へ。

いっぱい笑っていっぱいハラハラして、いっぱいお腹を空かせて（？）、その後は、この作品の主人公のジュジュマンの気分になって、横浜を探検する観光気分で、楽しんでいただく。

個性豊かな横浜の観光スポットに負けないエネルギッシュな私たちのステージを楽しみください。

お会いするのを楽しみにしています！

善岡修



少しずつ春めいて暖かくなって参りましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。関東は先日まさかの大雪に見舞われ、物陰を見るといまだに雪が残っていたりします。靴に穴の開いている私は甚大な被害を受けました…。ボロい靴でも私は元気、デフ・パペ新人の末永です。お久しぶりです！！

さて、3月の横浜公演も差し迫って参りました。皆で稽古やPR活動、それに制作作業に大忙しな今日この頃です。

今の森旅は初演の頃からかなり変わっている所が多いらしく、先日も初演をご覧になったお客様から「ほら、あそこ。お風呂に入るシーンあるじゃない？」とお話を伺いましたが少なくとも私が稽古を始めてから、お風呂のシーンは無かった筈…。更に聞くとラストシーンも今の形とはちょっと違った様で…。

もしかしてこれは、全く新しい舞台と言っても過言では無いのでは！？と密かに思っています。

とは言いましても、稽古の度に変化があり、より面白く進化して行くのは舞台全般に言える事ではありません。

少し大げさにはなってしまうかもしれませんが、こう言った変化をお楽しみ頂けるのも舞台の魅力のひとつです。

初めて観る方には勿論、初演をご覧になった方にも今回の舞台は是非ご覧頂けたらと思っています！

重くて軽い、遠くて近い。「森と夜と世界の果てへの旅」はとても不思議な舞台です。

今回は場所も横浜ですので、遊びがてらに是非ご覧になって下さいませ！

劇場で待ちしております～！！

末永快



3年前に初演をしてから久しぶりの地元での公演です。なかなか近くの方に観て頂けないので、この機会に是非たくさんの方の皆さんに足を運んで頂きたいと思います！！

白い舞台に、カラフルな人形、仮面、音、言葉がちりばめられ、目・耳・手足・身体全部で感じて頂く、そんな舞台です。

主人公「ジュジュマン」の飄々とした、でも、どこか力強い、〇〇探しの不思議な旅をお楽しみください！！

やなせけいこ



アフリカのダンスが好きなんです。

たいこジャンベの響き。

踊ると気持ちいいそうです。

じゃなくて、気持ちいいんです。

ジュジュマンとひよっぼこひよっぼこ
た・び・に・い・こ・う！



榎本トオル

「森と夜の世界の果てへの旅」（以後「森旅」）を3年間公演してきて思ったこと。「森旅」は人生の縮図のようなものだと。では、人生とは何か。人は何のために生きているのか。いや、何のために生かされているのか。この物語の主人公は仕事せず親のすねをかじってばかりのどうしようもない人間だったのに、物語の最後、主人公は一度むけて大きくなっていった。何が起きたのか。何が主人公を変えたのか…。

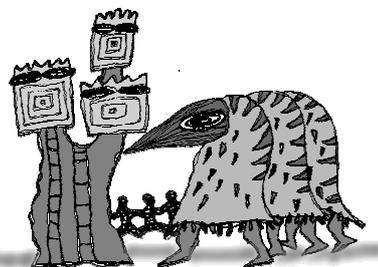
牧野英玄



3年前に初演を迎えたこの作品…演じ続けられることのありがたさを噛みしめています…と言うのも、ご覧になった方はお分かりになるかと思いますが、かなりハードに舞台を動きます。私は「森旅」公演に臨む前は身体の調整に気合が入ります。走り込んだり、柔軟をしたり、気分はキャンプ入りしたプロ野球選手並み(??)です。遣い手がしっかりあって、人形たちが生きて来る…などなど、色々なことを気づかせてくれ、ますます、いよいよ面白くなる可能性を掘り起こしてくれる、アリガタ～イ作品です。

皆さま！どうぞ不思議な、愛らしくも恐ろしい、おちゃめな人形たちに、何度でも会いにいらして下さい！！

鈴木文



★★ご報告★★

平成25年度「年賀寄附金配分事業(日本郵便株式会社)」で、防災人形劇『稲むらの火』を、小中学校23校で19公演行いました。今後も公演を続けてより多くの方にご覧いただきたいと思ひます。ご支援どうぞよろしくお願い致します。以下、今回の事業で観劇していただいた感想をいくつか紹介します。

☆今日はすばらしい人形げきをありがとうございました。それを見て私はじんがった後は海に近づいちゃいけないということを知りました。私もごへいさんみたいに人の命、自分の命をたいせつにしたいです。
(小学校3年)

☆「いなむらの火」楽しかったです。また、いろいろなことが分かりました。たとえば、つなみは二しゆるいあること、手話のことなどです。いんしょうにのこったところは、ごへいさんが大切ないなむらに火をつけたところだ。大切ないなむらに火をつけていいのかと思ひました。本当に本当に、いろんなことを学びました。すごく楽しかったです。また見たいです。(小学校3年)

☆耳が聞こえないのに、こんなすばらしいえんげきができて、すごいなと思ひました。災害についてあらためて知れて、また災害について考えられてとてもよかったです。ただの人形からいろいろな表現のしかたができていて、人形なのにこんなに表現できるんだ、と思ひました。
(小学校4年)

☆稲むらの火を見て、つなみがおそってくる時のつなみがとてもはく力があり、すばらしかったです。おまけタイムは耳の聴こえない人は、災害のときだけ困るかが分かりました。とてもいろんなことが知れて満足いっぱいでした。
(小学校5年)

☆私は「稲むらの火」を国語の授業で少しだけ勉強しました。でも文字だけではあまりそうぞうできませんでした。げきを観ておどろいたことが2つあります。1つは色々な種類の楽器を1人で演奏していたこと。2つ目が手話と言葉で耳に障害のある人も楽しめるようにしていたことです。本当にすごかったです。(小学校5年)

☆げきを見てすごくだキドキハラハラしました。もし五兵衛さんのような人の知えや思いやりの心がなかったら村はどうなっていたのか？などいろいろな事を想像させてもらいました。稲むらの火は本当にすばらしいげきでした。私達に地しんのこわさやきょうふしんを覚えさせてくれる事と共に、だんけつ力や勇気もあせてくれる劇でした。(小学校5年)

公演スケジュール

2014年3月～6月(3月5日現在)

「森と夜と世界の果てへの旅」

2014年3月28日～30日 横浜公演!

会場: KAAT 神奈川芸術劇場<大スタジオ>

28日(金) 14:00/19:00

29日(土) 14:00

30日(日) 14:00

全席自由 3,000円(税込)

※こども(中学生以下)2,000円(税込) <当日各500円増>

ワークショップ

「体験しよう!人形とからだの表現～“デフ・パペット”の世界～」

3月16日(日) 14:00～15:30 神奈川芸術劇場中スタジオ

●参加費: 1000円(材料費含む)

●お申込み:(公財)現代人形劇センター

TEL.044-777-2228 FAX.044-777-3570

「一寸法師」

2月21日(金) 神奈川県平塚市 大野公民館(開演10:30)

「講演会(善岡・牧野)」

3月15日(土) 愛知県幸田町

追加・変更される場合もありますので、詳しくはデフパペ事務所にお問い合わせ下さい。

★★お知らせ★★

☆ AKIRAのひとみ一片岡昌を偲ぶ4days-

2月8日(土)・9日(日)・15日(土)・16日(日)は、雪が降ったり、大変な天候の中、皆さまのご協力で無事終了致しました!ご来場いただいた皆さま、本当に、どうもありがとうございました!

☆☆キリン福祉財団による助成で、来年度もろう学校の子もたちとのワークショップが決まりました。どんなことをやるかと言うと、手話の表現力=話す力を身につけるために、詩を手話と人形劇で表現します。今回は何と、あの森元勝人が構成・演出に関わります。まだまだ現役です!!

日々制作...

風

「声のカタチ」 by 大木翔吾



by 大里千尋

『聲の形』面白いですね。重くなりがちな内容を、深刻にならずに、といて軽く描いていて、毎週楽しみに読んでいます。週刊少年マガジンにて連載中。

さて、僕にとっての「声のカタチ」について。最近、「声が良い。」とお褒めの言葉をいただくことが多い(僕、聴者です)。特に電話では丁寧に喋るためか、実際に会っても気づいてもらえないこともありまして、デフパペ役者達+私の顔をキョロキョロと眺めながら「今日、大木さんはいらっしやらないんですか?」と聞かれることもしょっちゅう。どうやらナイスミドルな紳士を想像される方が多いみたいです。ご期待に沿えず、ゴメンナサイ。まだお会いしたことない方、過度なご期待は禁物ですよ!で、ここから本題。音声言語だけでなく、手話も言語だから当然『きれいな手話、よく伝わる手話。』というも存在しますよね。先日、とある手話通訳士さんから言われたこと。「大木さんはこんなに良い声なのに、手話の腕前が追い付いてなくてとても残念。その声の様に、きれいな手話・よく伝わる手話を目指してね。」とのアドバイス。手話を始めて(デフパペに入って)から2年と半年。「もっと頑張らないとなあ...。」と思う反面、「そういうアドバイスをもらえる段階にまで来たのかあ。」と嬉しくも思ひ、これから自分なりの素敵な「声のカタチ」を目指します。うーん、しかしまあ、良い声良い声と自分で書くのは恥づかしい。。。

私には小学3年生になる甥っ子がいて、私がデフパペに入ってからというもの、近くで公演があれば必ず観に来てくれています。彼の学校では芸術鑑賞の授業はなく、将来プロのサッカー選手を目指し毎日サッカー漬けなので、人形劇の公演を観ることは芸術に触れることの出来る貴重な時間です。

先日、鎌倉での稲むらの火の上演に彼は友だち2人を引き連れてきました。そこでビックリ!!

3人揃って、案内係の方に向かって手話で「こんにちは」。

公演後には手話で「拍手」に「ありがとう」。

何で手話が出来たのか尋ねたところ、

以前観た「はこ」の時に興味を持ったそう。友だちにもしっかり指導をしたそうです。

彼の世代に興味を広げるきっかけの一つでもつくれることが出来たのかと思うと、とても嬉しくて、雪が降る寒い日でしたが心はほかほか。

貴重な時間をプレゼントしていたつもりが、心が育つ瞬間に居合わせる事の出来る時間をプレゼントされていたのでした。